

## えびの岳

約 10 万年前、えびの岳は活火山でした。その後の長年の風化により、えびの岳は今日、直径 700 メートルの浅い火口となっています。斜面を上がって火口壁の周りを通るこのハイキングコースは、急な坂道がほとんどなく、約 70 分で歩けます。

この展望台は、火口の南西端、標高 1,300m 弱の地点にあります。ここでは、北西に見える白鳥山から時計回りに甑岳、硫黄山、韓国岳を望むパノラマの景色が楽しめます。はるか南には鹿児島湾と桜島、そして天気の良い日には指宿半島の先端にそびえる開聞岳まで見渡せます。

## 温帯と暖温帯の林

このハイキングコースでは幅広い植生がみられます。霧島錦江湾国立公園には、暖温帯林と温帯林が出会い交わる緯度・経度にあたる場所が数多くあり、えびの岳もそのひとつです。標高の低い場所にはアカマツとアカガシ、高い場所には寒く雨の多い気候に適するブナの大木が生き茂っています。標高が上がれば上がるほど落葉樹が多くなります。この変化は頭上に茂る木々の葉を見れば明白です。適応力の高いクロヅルはコースの至る所で豊富に見られます。

## キノコの宝庫

えびの岳はキノコ好きの人にとっての楽園でもあります。キノコは木々同士のコミュニケーションを助ける重要な役割を果たしており、その詳細は科学によってようやく解明され始めたばかりです。10 月には、ツキヨタケ (moonlight mushroom) と呼ばれる暗闇で光る種類のキノコを見ることが出来ます。